



4Qの漢字学習 Micro step

漢字は、3Qまでで2年生の160字を覚え、それらを用いた熟語も学びました。4Qでは、3年生以上の熟語を読み先行で学習していきます。

読み先行で漢字を学習すると、新出漢字の習得も容易になりますし、生活の中で様々な情報を得られるようになります。読める字が増えると、熟語の意味が推測できるようになったり、人に「これなんて読むの?」「これどういう意味?」と聞いて語彙の習得が加速したりします。

用いる教材は、Micro stepという児童のiPadに入っているアプリで、これはエビングハウスの忘却曲線の理論に基づいた興味深い教材です。



【漢字だけでなく四字熟語や英単語もあります】

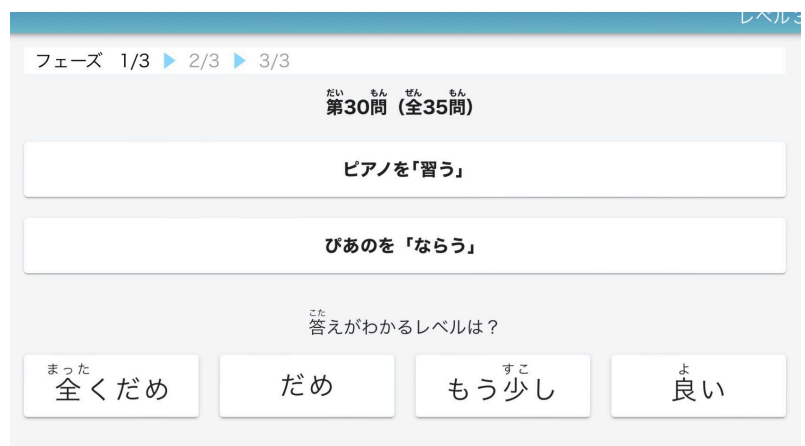
忘却曲線は、「人間は記憶したことを時間の経過とともに忘れていき、1か月後に覚えているのは2割だけになる」「繰り返し覚え直すほど忘却の速度は緩やかになる」というものです。

本来は、繰り返し練習することで忘れないようにしようという考えになるのですが、Micro stepは1か月たっても忘れない2割に注目をするという点が、他にはない学習方法となっています。

右の写真がMicro stepです。まずは、分からなくてもいいから問題（漢字の読み）を解きます。

タップするだけで答えが表示されるので、右の写真の選択しのように、答えが分かるレベルを選択します。

残念ながら、覚えたうちの8割は忘れてしまいますが、2割は記憶されます。



【時間をかけず、ポチポチ押して答えを確認していきます】

Micro stepは、「学習者が記憶した」と判断したものを除外し、「記憶していない」と判断したものを選び、繰り返し出題します。

覚えていない字が少なくなると、同じ問題が何度も出されるようになるので、それらも記憶しやすくなります。

また、学習者の認識が間違っていないか確かめるため、テストが出題されるので、「良い」ばかり押していてもレベルアップしていくことはありません。



【Micro stepテスト】

とにかく継続して取り組むことで、「忘れない2割」を増やしていくことで、読める熟語がみるみると増えていきます。

相当数の熟語をAIが判断して出題してくれるので、読みの学習では紙媒体よりも効率的で効果が高いです。

1日3～5分という短い時間で、集中せずにポチポチとタップするだけでできるので、隙間時間にも取り組みやすいです。

ぜひご家庭でも取り組んでいただけるとありがたいですが、以下のような注意点もあるので、上手にご活用ください。

①集中力や学習習慣を高める効果は低い

短時間で、集中しなくても取り組めるので、家庭学習の中心には向いていません。実際に書いたり計算したりするのは確かに面倒ですが、「今日はMicro stepやったからこれで終わり！」となってしまうと、粘り強く学習に取り組む態度は身に付きません。もうすぐ3年生になる子どもたちには30分家庭学習に取り組める集中力と学習習慣が必要です。Micro stepは、隙間時間の副教材として学習するのがおすすめです。

②子どもの状態に合わせて活用する

現在、ほとんどの子が2年生の漢字160字を全て習得しているので、読める字をできるだけ増やす目的でMicro stepを用いています。

まだ2年生の漢字を覚え終わっていない場合は、そちらを優先したほうがよいですし、4月からは3年生の漢字の習得が先です。

上学年の字を読めることはとても有益ですが、現在の学年の字を書けないようではいけないので、状態を見極めながら取り組む必要があります。

九九や漢字などの2年生の基礎・基本の学習が終了し、子どもの力を伸ばす様々な学習に時間を充てられることをうれしく思っています。4Q末に、驚くほどたくさん漢字を読める子どもたちの姿が見られるのが楽しみです。